市政懇談会（南志見地区）
議事要旨

日　時　令和8年10月25日(日)　10:00～11:18
場　所　南志見公民館　研修ホール
出席者　住　民：64名
行政側：輪島市　坂口市長、中前副市長、小川教育長、永井総務部長、上野企画財政部長、川端市民生活部長、河崎健康福祉部長、廣岡農林水産部長、山本産業部長、田川建設部長、木下教育部長
石川県　奥能登農林総合事務所・山口計画課長、渡邊担当課長、三輪森林保全課長　奥能登土木総合事務所・前田輪島事業調整室長、西輪島復旧復興課長、神崎輪島復旧復興担当課長
事務局：平田復興推進課長、一本松

① 市長挨拶
市　長：本日はあいにくの天候となったが、雨の中、市政懇談会にご出席いただき、感謝申し上げる。震災から2年10か月が経とうとしている。皆さんの中では、なかなか復旧が進まないという感覚があるかと思うが、現在どのような状況まで進んでいるか、市としてどういったことに取り組んでいるかということを、お手元の資料から4点ほど説明し、その後皆さんからの様々なご質問やご意見にお答えしていきたいので、よろしくお願いする。
　本日は、私たちの後ろに市の部長がいるが、石川県の土木、そして農林の方々も来られている。本日は市のことも、県のことも、国のことも何でも結構なので、ご意見やご質問をいただきたい。

② 配布資料の説明
市　長：1ページをご覧いただきたい。地震と豪雨を受けて、災害に対する備えを強化している。左側のページにあるのは、令和6年の地震時の状況であり、避難所が全く足りなくなり、多くの方が避難所で過密状態となった。そうした中で、トイレをはじめとした衛生環境の悪化による感染症リスクの増大があり、また、最大で1万3700人を超える避難者に対し、19年前の能登半島地震の備えであった1800人分の備蓄しかなかったということである。
　そうした反省を踏まえた現在の取組としては、右側の表の一番上にある、届出避難所の制度を創設した。市役所が指定する指定避難所だけでは足りないため、地域の集会所や神社、事業所などを避難所として登録していただき、そこを指定避難所の保管場所とするということで、現在それぞれの地区から申し出をいただいている。輪島市内全体ではすでに13か所が届出避難所となっている。35平米以上の避難スペースを確保できることなどの要件はあるが、登録された場合には保存食や簡易トイレなどを市の方から用意してその場所に置くため、ぜひ申請していただきたい。
　2番目はトイレカーの導入である。市では大型トイレカー1台と軽のトイレカー2台の合計3台を購入した。全国の自治体で同様の取組をしており、いざ災害が起きた際には全国から集まってくる。先般の熊本地震でも、輪島のトイレカーが支援に

行っている。
　それから、備蓄計画を策定中である。前回の震災を経て、現在は1万2000人分の2日分を備蓄している。非常時には流通店舗の在庫を買い上げて計3日分を確保する予定である。
　次に、2ページをご覧いただきたい。新たな総合計画の策定に向けた取組についてである。今年度で輪島市の総合計画が終了するため、来年度からの8年間を対象とした新たな総合計画の策定に取り組んでいる。これは輪島市の行政運営の最上位計画であり基本的な指針となるため、皆様にもアンケート調査を配らせていただいた。19日でアンケート調査が終了し、約4割弱の回収ができた。ご協力いただき感謝する。皆様の声を反映しながら総合計画をしっかりと立てていくので、今後ともよろしくお願いする。
　9ページをご覧いただきたい。災害復旧・復興工事を加速させるために、ようやくその体制が整ってきた。地元の建設業者も精一杯頑張ってくださっているが、被害箇所が大きく、なかなか復旧工事が進まない。入札を行っても、土木工事で4分の1、建築では半分以上が不調となり、仕事が進まない状況が続いていた。設計を行うのにも非常に時間がかかり、現在の復旧工事の設計は測量や調査などを含めてまだ8割しか完了していない。しかし、完了した8割分の工事を急いで進めるため、このページに書いてある体制をとった。
　全国のスーパーゼネコンと言われる大手の建設会社に輪島に入っていただき、下水、浄水、河川、道路、農地など様々な工事を別々に発注するのではなく、一括して大手の建設会社に頼むというやり方をした。技術や工法の提案もいただきながら進めるもので、この5ブロックだけで約1000億円規模の工事を一括して発注することとした。ECI方式という全国でも珍しい方法だが、ここまで行わないと復旧が進まないためであり、10月中に契約が完了する。これから目に見えて復旧・復興が加速すると思う。
　輪島市内ではこうした関係者が約1500人入ってくるため、現在プレハブの宿舎を建設中である。早ければ今年度中、遅くとも今年度中には工事が本格的に始まると思うので、交通の部分等でご協力をいただくこととなるが、よろしくお願いする。
　なお、南志見地区はこのエリアに入っていないが、南志見地区は従来どおりしっかりと工事を発注していくので、担当者からも後ほど説明するが、国や県と力を合わせて復旧・復興工事を進めていくのでご安心いただきたい。
　10ページをご覧いただきたい。災害公営住宅の整備についてである。輪島市全体で1219戸の申し込みを受け付け、現在は980戸の整備が確定しており、残り239戸については建設場所や戸数について石川県と調整を行っている。決定次第速やかに公表するが、左上の表のとおり地区別・団地別の状況となっている。
　南志見地区において、整備戸数は45戸となっている。木造の仮設住宅を改修して災害公営住宅にするというやり方であり、着工予定は来年3月、完了は来年9月である。ただ、これも調整が必要であるためあくまで計画だが、現在この建設予定地にお住まいの方々にいったん別の場所へ移っていただく必要がある。改修工事を行うために必要な調整となるため、速やかな移転にご協力をお願いしたい。そして来年9月の完成を目指していく。
　病院のことも含め、様々なことが新たに起こっている。復旧を加速させる体制を

しっかりと整えてこれから本格的に工事が進んでいくし、なりわいを含めてもとよりもさらに良い形で、皆様の声を聞かせていただきながら、もっと魅力的で安心して暮らせる地域づくりを進めていくので、ぜひご協力をお願いする。本日は短い時間ではあるが、皆様の声を聞かせていただきたいので、よろしくお願いする。

③ 意見交換・質疑応答

尊利地町・住民：先日、町野の要望書に対する回答をいただいたが、上下水道の件で、水を上のタンクへ上げてくれないかとお願いしたところ、道路が潰れているため駄目だとのことだった。今、その道路は県の砂防ダムの工事用となっているが、工事も全然入っていないため、仮設でいいので水をタンクまで上げられないだろうか。工事道路はできているが、途中20メートルほど水道のパイプが流れて欠損している。その区間、ポンプからタンクへ上げてもらえばいい。上流の住民も希望している。何とかできないか。

　ポンプ室が水害を受けているが、建物は建っている。そこらの水道管は多分大丈夫だと思う。タンク近くの水道管の破損部も地震の時に仮設で通しており、新しく仮設道路を作った後のその区間20メートルほどだと思う。

市　長：水道管だけでなくポンプで上げるためには電気設備や道路の関係もある。できることならば通したいと思うが、ポンプアップのための電気関係の設備がうまくいかないと考えられる。仮設の水道管で対応できるか等、確認し、報告したい。

名舟町・住民：先日、千枚田から海に向けてできている仮設道路で、朝、アンダーパスにワゴン車が1台が水没していた。その日の夕方、胴長を履いて息子と見に行ったところ、なぜ水が溜まったのか確認した。排水ますががれきで目詰まりを起こしており、それを取ったところ勢いよく水が排出されて1時間ほどで空になった。あそこの道はどれだけ雨が降ったらすぐ通行止めになるのか。柳田や、のと里山空港へう回するのは大変である。もう少し管理を徹底し、看守を置いて状況をしっかりと見てもらわないと、すぐに道が止まるようでは若い人がこの地から離れてしまう。

奥能登土木総合事務：国道249号の目詰まりの件や管理の件について、国土交通省の能登復興事務所にも話を伝え、そのようなことが起きないように努める。

里町・住民：先ほどの道路通行止めの件で、解除の連絡についてお願いしたい。先日は朝7時25分くらいに解除の連絡があったが、ここから市街地へ通勤する者は柳田回りで1時間かかる。学校の子供たちの通学を考えると、できれば朝7時くらいには最低でも連絡をいただきたい。

奥能登土木総合事務所：意見を参考にさせていただく。現在まだ暫定道路のため、雨が降ると通行止めにせざるを得ない。通勤・通学への配慮をしつつも市民の安全が第一であるため、今後も通行止めが発生する際はご協力をお願いしたい。

市　長：解除の基準がある。一定量の雨が降れば安全のために通行止めとし、雨が止んでから一定時間の経過と点検を経て解除となるため、時間に合わせた正確な案内が難しい。雨の降り具合によるが、解除の方向へ進む際には配慮できるよう、国へも私からもお願いしておく。

奥能登土木総合事務所：雨が1時間に20ミリ、もしくは連続して110ミリ降ると通行止めにす

る。解除は時間指定ではなく、雨が止んでからのパトロールで土砂の有無など安全確認を行ってからとなる。

町野第1団地・住民：上水の件で、これまで町野から水を引いていたが、現在はそこで水を作っている。水質的にはいいと思うが、気持ち的なものも含めて、ペットボトルを購入して飲料や食事に使う住民もいるため、町野の上水を南志見まで引いてくる計画があるかどうか伺いたい。

市　長：今、町野から上水はこちらに来ているはずである。

尊利地町・住民：尊利地1号線と名舟線について、現在工事の設計中であり、それが終わり次第発注する予定と聞いたが、それまでの間に応急処置をしてもらえないだろうか。上から落石の危険があり、車や歩行者が通るため危ない。応急的な処置をお願いしたい。

田川建設部長：ご存じのとおり道が狭くて、のり面や崖がある場所であり、仮設による対応は今後も検討したい。しかし、のり面が高い位置にある場合、下で防ごうにも道路に広いスペースがなければ気休め程度にしかならない箇所もある。可能な場所は検討するが、そこまでやるなら本設工事を早めた方が早い場合もある。

南志見地区・住民：以前、南志見で地域の方と交流面談をした際、市長から「必ず全部直します」とお聞きした。立場上否定的なことは言えないと思うが、地震からもうすぐ3年が経ち、能登の人口減少も深刻である。住民が残るか去るかを判断するための返答の時期にきているのではないか。本当に全部直すのか、この地域はいったん止めるのかというジャッジをそろそろ聞きたいが、いかがか。

市　長：基本的には直す。その地域に住みたいという方がいる限り、市道や県道は復旧する。集団移転を選択した集落の意思は尊重し、その道路は直さなくてもよいという判断もあるが、農地があって農業が行われている場所は直していく。

　しかし、これだけの被害に対し、工事事業者の数が追いついていない現状がある。入札不調もあり、設計は全国のコンサルタントや設計会社にお願いしているが、まだ8割しか終わっていない。

　住み続けたいという集落があれば必ず直すが、住民が出ていくと判断した場合は手をつけないこともある。基本は全地域の設計を行っている。

　ECIという全国のゼネコンが入り、市の発注分だけでも約4000億円を見込んでいる。まずは1000億円分をゼネコンにお願いし、地元の建設業者等と一緒に工事を発注していく。エリアの工事は令和12年度の完了を予定している。

　ただし、山を守るための治山など細かな工事も含めるともう少し時間はかかるが、だいたい令和12年を目標に整備復旧を終えたい。移転を選択した集落以外は必ず道をつける予定であり、復旧設計も入っているため安心していただきたい。東日本大震災の例を聞いても10年ほどかかると言われており、概ね令和12年あたりを目標としている。

南志見地区・住民：復興の大まかな考え方はわかった。しかし復興は何のためにあるかといえば、元の住民に残ってもらうため、離れた人に戻ってもらうためである。復興工事のために立ち退きを余儀なくされている事例もある。能登に踏ん張って残っても

らうことが一番大事であるため、1000年に一度の大雨対策にそこまで必要なのかを見直し、住民が残れる・戻れることを第一優先に計画を進めてほしい。

市　長：復旧・復興に伴う立ち退きは生じる。住んでいる方に負担をかけたくない思いはあるが、近年の雨の状況を見ると、単に元の線形に戻すだけでよいのか、次の雨で被害が起きないかという問題がある。

　より強じんで安全な復旧を進めなければならないのは全国的な話である。特に河川は曲がりくねった箇所が災害の原因となるため、少しまっすぐにする過程で道路の付け替えなども生じる。自治体として負担をかけないよう配慮して設計するが、やむを得ない部分があることはご理解いただきたい。

里町・住民：昨年末に里町集会所の浄化槽を直してもらったが、浄化槽周囲の舗装(セメント)が1年経ってもされていない。夏には自分たちで草を刈っている。上下水道局へも直接出向いたり電話したりしているが、係の方は業者にお願いしていると答えるだけで、1年経つのにセメントすらされていない。今年度中にきれいにしてもらうよう業者へ指導をお願いしたい。

市　長：しっかりとやるように指示を出す。現実として業者がなかなか来てくれないのが正直なところで、市役所の周りもデコボコのままである。発注していても進みが遅い状況だが、至急対応するよう再度依頼する。

名舟町・住民：名舟港の復旧は、農林水産課と計画を練り、12月頃から進むと聞いている。それはそれとして、名舟港の現状はあまりにも汚く、野鳥の楽園のようになっている。

　半分埋め立てて漁師が使えるよう復旧する話が進んでいるが、マリンタウンの方でボート等の施設が不足しているため、名舟港にボートを集約できる港をもう一つ奥に作れないか。港が完成すれば遊漁船などが入る観光港になるのではないかという夢の話もあるが、輪島港が狭いという意見もあり、緊急避難港として大きな船が入れる港を目指してほしい。

廣岡農林水産部長：ハードルの高い希望であるが、今後皆さんとどのような漁港の形態がよいのかじっくり話し合いたい。

西山町・住民：現在は仮設から西山の方へ畑仕事に、ほぼ毎日通っている。ここ数年測量が行われている。しかし、その測量の様子を見ていると何回も同じ測量を繰り返し、ピンクのテープがセイタカアワダチソウの枯れかけたような枝に縛られているだけで、冬が来たら何のための測量だったのか不安になる。来年も同じことを繰り返すのか。どう見ても農地にならないところを測量していた。農地を作りたいという私たちの気持ちが無視されているようで、一体どう計画されているのか。

　現在西山にいるのは3戸だけで、農地を作っているのは実質1戸だけである。地震後は手つかずの状態である。この先、私たちも老いていく。何年後に作付できるのか不安である。

廣岡農林水産部長：農地に関しては各区長や農業者代表から復旧希望を確認し、測量設計を行っている。西山町は道路事情等の被災が著しいが、来年度中には発注したいと考えている。ただ、業者が確実に請け負えるかという問題もあり、もう少しお待ちい

ただきたい。
　設計自体は全体で8割ほど完了しており、ため池の設計もほぼでき上がっている。いつ完了するかは明言できないが、概ね令和12年度までの復旧を目指す。河川脇の農地は仮設的なポンプでの耕作となるが、西山町は水の供給が難しいため、ため池等の復旧も含めて早く進めたい。

西山町・住民：河川の近くの農地は中山間地であり作付は無理である。私たちが使いたいのは既存のため池だ。しかし、土砂崩れで用水路が埋まったままの状態であり、そこを直してくれれば1、2枚は作れる。だが直してほしいところが放置されている。
　測量のために草刈りをして協力したのに、その後測量はなくなった。なぜ住民の意見や気持ちを無視して声をかけてくれないのか残念でならない。

廣岡農林水産部長：区長や農業者代表と詳細に打合せを行っている。被災状況が激しいため、現在は区長や代表者を通じて進めていることをご理解いただきたい。

南志見地区・住民：先ほど、輪島市の重点地域5か所の整備で1000億円のプロジェクトを来年契約するとあったが、非常に良い展望だと思う。国の防災立国会議や県のリーディングプロジェクトの5つの基本構想を南志見に当てはめて伺いたい。
　1点目は絶景街道観光の推進である。南志見の国道249号の海岸線が仮置き場になっているが、集落からの排水管理が不十分である。千枚田では川があふれ、アンダーパスの詰まりもあった。仮置き場の水路はアンダーパスのみであり、大雨が降れば仮置き場や道路が水没する危険がある。国土交通省の事務所の方にも現地立会いをお願いしてきたが、河川と仮置き場の工事が別々に扱われて管理されていない。町野町大川も冠水のおそれがあり、新しい回路への付け替え工事が予定されているが、波をかぶる状態が懸念される。仮置き場を使わず最終処分場を検討してほしい。

奥能登土木総合事務所：国道249号の暫定道路に関するご不便について、能登復興事務所にも地元の声をしっかり伝え、つなげていきたい。

南志見地区・住民：アンダーパスについて改善の話はあるが、アンダーパスだけでは不十分であり、川の護岸工事と仮置き場の整備を改めてお願いしたい。

奥能登土木総合事務所：詳細な情報は持ち合わせていないが、復興事務所に状況を確認し、アンダーパスでは不十分という点を伝えて対策を検討したい。

南志見地区・住民：2点目はサテライトキャンパス構想の推進である。町野のコミセンベースのように、南志見でも千枚田愛耕会の宿泊拠点があることで農村学会の調査員が毎週のように来訪できている。これを評価し、ボランティア拠点となるサテライトキャンパス構想を南志見にも展開してほしい。

市　長：サテライトキャンパス構想は県として進めるものであるが、南志見には住民が改修された拠点施設もあると認識している。県とも相談し、活動がさらに積極的になるよう進めていきたい。

南志見地区・住民：愛耕会の拠点のように無料で泊まれるようなものを検討していただきたい。あと、職員用に建てたが活用されていない宿舎を、ボランティアが低料金で利用できるよう許可をいただけないか。

市　長：無料での提供は経費面から難しい。仮設住宅の今後の活用も含め、災害公営住宅の建設が進んだ後に有効活用を考えていきたい。多くの人が地域を訪れる寄りどころとなることはありがたいので、活用を進めていく。

南志見地区・住民：3点目は2地域居住のモデル、関係人口拡大の構想である。南志見活性化には必要であり、私は市外に住所を持ちつつ、昨年7月から仮設住宅に入り集落に通っている。来年はオープンガーデンの登録も予定している。南志見小学校を活用する方向を探ってもらいたい。

市　長：南志見小学校の活用については申出を聞いており、地域の振興のために活用方法を探っていきたい。

白米町・住民：先ほど市長から災害に強いまちづくりとしてより安全な復旧を目指すという話があったが、能登の住民は都会と違い、生活よりも暮らしや農地を大切に生きている。農地とともに生きることで能登の魅力が発展してきた。河川の大規模改修や道路の拡幅も大切だが、優先順位としてこうした暮らしを支える部分を踏まえて復旧を進めてほしい。

市　長：復旧は原則として「元に戻す」ものである。ただ、直しても次の災害で再び被災しては意味がないため、以前よりも強じん化を図るということである。水路や道路を不必要に大きくするわけではない。線状降水帯などの心配を減らすための最低限の直し方であり、景観や里山里海の風景を損なうような大規模な変更は考えていないので安心していただきたい。

名舟町・住民：集落の周りが空地に囲まれている。空地が多いと放置されて草木が生い茂り、環境が悪化する。所有者が不明な状況もあり、今後の空家対策は行政に頼るしかない。草やがれき、枝が川に流れ込み、家の後ろに土石流が迫るため、これまでユンボで3、4回自分で直している。今後の空家対策をどう考えているか。

市　長：非常に難しい問題である。震災による公費解体で空地が増えたが、原則は所有者による管理をお願いしており、草刈りや防草マットの補助金等も案内している。しかし放置されている場所が多いのも事実である。土地の問合せもあるため調整は必要だが、個人の家の草刈りまで市が介入するのは現実的に難しい。大きな課題として持ち帰らせていただく。

名舟町・住民：宮の広場へ抜ける市道が止まっている。国道工事で道が狭くなっており、早めに宮の広場まで道を開通させてほしい。のり面の工事が一段落すれば通れるようになるのか。

奥能登土木総合事務所：市道の上の斜面については先日業者が決まり、今後工事に入る予定である。またご挨拶に伺う。

田川建設部長：市道の件、県土木と調整し、メドが立ち次第道を通したいと考えている。また、南志見地区で交通確保のために仮橋やう回路を設ける際、農地などの土地にご協力をお願いすることがある。担当者から相談に伺うので、その際はご協力をお願いしたい。




中前